

## 「運動好き、外遊び好き」な

### 児童の育成

#### 大分県豊後高田市立高田小学校

全校児童数	359名(男子169名 女子190名)		
全クラス数	14	教職員数	34名
体育専科教員訪問学校数			6校
訪問校	桂陽小、河内小、田染小、戴星学園 呉崎小、草地小		
体育専科教員名			桑原 正純

#### Plan：取組時の課題と計画

##### 1 取組時の課題

##### ◆思いっきり遊べない児童

新型コロナウイルス感染症拡大の第7波と第8波の流行で今年度も休み時間の過ごし方に制限があった。そのため、遊び方や時間差などの工夫をしながら過ごしてきた。児童にとっては「好きなこと」を「好きなだけ」「友だちと遊ぶ」ことができなかった。「With コロナ」と言われているが、学校現場は感染拡大防止に全神経を注いでいる。

##### 2 取組の計画

###### ① 休み時間の感染防止の取組

- ・ 休み時間後の手指消毒
- ・ 遊び場の区分

###### ② 運動意欲を高めるための授業の工夫

- ・ 接触を回避した集合隊列
- ・ 教材教具の配置の工夫
- ・ ICT機器の活用

#### Do：実践内容

##### 1 休み時間の感染防止の取組

###### (1) 休み時間後の手指消毒

- ① 昇降口にアルコールを設置し、休み時間終了後は必ず手指消毒をしてから教室に戻る。
- ② 児童の委員会活動で呼びかける。
- ③ 体育の授業の前（体育館入り口）に手指消毒をしてから授業を行う。

###### (2) 遊び場の区分（詳しくは次ページ）

- ① ドッジボール、キックベースボール、バスケットボール、サッカー、鬼ごっこ、縄跳び、一輪車などの遊び場を区分けする。
- ② ラインが必要な遊び場は、毎朝ライン石灰で線を引く。
- ③ 各学級に遊び道具を配置する。バレーボールや長縄跳びなどは貸し出しコーナーから貸し出す。

##### 2 運動意欲を高めるための授業の工夫

###### (1) 接触を回避した集合隊列

- ① 挨拶や準備体操、説明などの隊列は体育館及び運動共に約2m間隔で整列する。
- ② 低学年は間隔が分からないため、目印となるポイント（体育館ではテープ）をつける。

##### (2) 教材教具の配置の工夫

- ① 隣の活動グループの間隔を広く開けるために体育館や運動場いっばいにコートや教具を配置する。
- ② 少人数で活動させるため、他校より教具を借りて行き運動量を確保する。（マットや跳び箱など）

##### (3) ICT機器の活用

- ① 一人一台端末の普及により、中学年と高学年は「めあて」や「振り返り」をタブレットで行う。
- ② 動画の撮影や示範演技で技の確認をしながら、技の習得や友だちと互いに教え合えるようにする。

##### ●工夫したこと（&苦労した点）

- ① 毎日のライン引きは大変ではあるが、児童にとってはラインが「ある」と「ない」では、遊ぶ意欲が異なり、やはり遊び環境が整っていると自然に外遊びをするようになる。ラインの消費は大きいが大切なことである。
- ② タブレットを授業で使用することで「運動量が確保できない」という課題を聞くが、使用ルールをしっかりと押さえることで運動量も十分確保できる。

#### Check：取組の成果

- ① 遊び場を作ることで、意図的に呼びかけをしなくても自発的に外遊びをするようになった。（愛好度92%）
- ② タブレットを取り入れることで、グループ内で動きを撮影し、児童間での教え合いや学び合いができ、運動が苦手な児童も意欲的に活動できる。

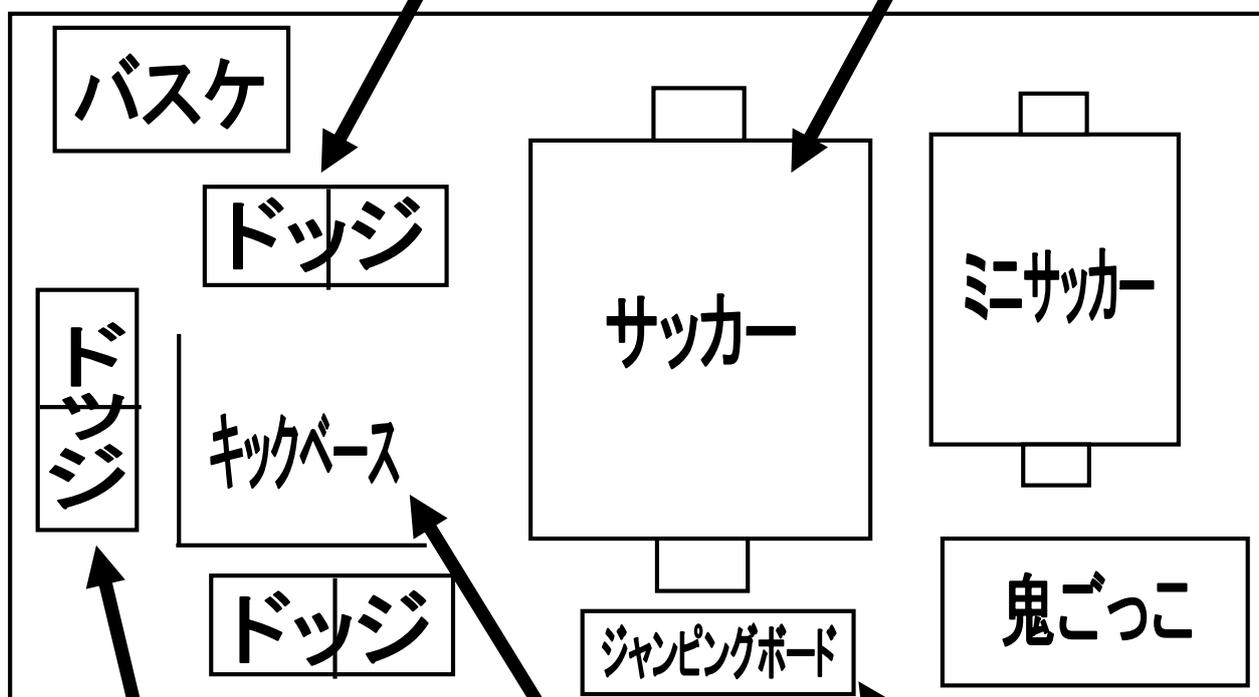
#### Action：今後の課題

新型コロナウイルス感染症が早く治まり、以前のように伸び伸びと外遊びができるようになってほしい。

#### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

体を動かすことは子どもたちにとって心身の成長に必要な不可欠な活動である。丈夫な体を作ること学業にも影響すると思う。

### 運動場の遊び場区分



中庭にフリースペースあり

